㈤　学校教育法による高等学校若しくは旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）による中等学校を卒業した者又はこれと同等以上の資格を有する者のうち、林業又は土木の知識及び技術を有している者であって、卒業（上記学校の卒業と同等以上の資格を取得した場合を含む。）後、森林土木部門の職務に従事した期間が28年以上ある者。

㈥　（一社）日本森林技術協会が行う林業技士の登録（森林土木部門の登録に限る。）を受けた者であって、森林土木部門の職務に従事した期間が８年以上ある者。

イ　平成17年度以降に、上記⑹に掲げる業務において管理技術者、照査技術者又は現場担当技術者として従事した経験を有する者。

なお、当該実績が森林管理局長等が発注した業務のうち業務成績評定を実施している場合にあっては、業務成績評定点、管理技術者に係る技術成績評価点又は照査技術者に係る技術者成績評価点のいずれかが60点未満であるものを除く。

ウ　令和２年４月21日現在の手持ち業務量（特定後未契約のものを含む。）が、契約金額100万円以上の管理技術者又は現場担当技術者として従事する全ての手持ち業務の契約金額総額が２億円未満かつ総件数10件未満である者。

⑽　照査技術者は、平成16年度以降に上記⑹に掲げる業務の経験を有するとともに、管理技術者、照査技術者又は現場担当技術者として従事した経験を有すること。

⑾　次に掲げる基準を満たす現場担当技術者を当該業務に配置できること。

測量法（昭和24年法律第188号）第49条に規定する測量士（地すべり調査の場合は、地すべり防止工事士登録規程第３条）の登録を受けている者。なお、管理技術者が測量士（地すべり調査の場合は地すべり防止工事士）の登録があり、現地指導を行う場合は、現場担当技術者の測量士（地すべり調査の場合は地すべり防止工事士）の登録は問わない。

⑿　申請書、資料及び技術提案書（以下「技術提案書等」という。）の提出期限の日から開札の時までの期間に、中部森林管理局長から「工事請負契約指名停止等措置要領の制定について」（昭和59年６月11日付け59林野経第156号林野庁長官通知）又は「物品の製造契約、物品の購入契約及び役務等契約指名停止等措置要領について」（平成26年12月４日付け26林政政第338号林野庁長官通知）に基づく指名停止を受けていないこと。

⒀　入札に参加しようとする者の間に資本又は人的な関係がないこと（入札説明書参照）。

⒁　「農林水産省発注工事等からの暴力団排除の推進について」（平成19年12月７日付け19経第1314号大臣官房経理課長通知）に基づき、警察当局から、部局長に対し、暴力団員が実質的に経営を支配する事業者又はこれに準ずるものとして、農林水産省発注工事等からの排除要請があり、当該状態が継続している者でないこと。

⒂　中部森林管理局管内に本店、支店又は営業所を有していること。

営業所とは、平成31・32年度一般競争参加資格審査申請書（測量・建設コンサルタント等）の様式４に記載された営業所で、その所在地及び営業区域が中部森林管理局管内にあるものをいう。

３　競争参加資格の確認等

⑴　本競争の参加希望者は、上記２に掲げる競争参加資格を有することを証明するため、次に掲げるところに従い、技術提案書等を提出し、支出負担行為担当官から競争参加資格の有無について確認を受けなければならない。

なお、技術提案書には、次に掲げる事項について記載すること。

ア　基本事項

イ　業務の実施方針等に関する事項

ウ　技術提案に関する事項（評価テーマ）

㈠　流域特性を踏まえた体系的な測量データの活用方法

⑵　技術提案書等の提出期間、場所及び方法

ア　提出期間：令和２年４月22日から令和２年５月20日まで（行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）第１条に規定する行政機関の休日（以下「休日」という。）を除く。）の午前９時から午後５時まで。

イ　場所：〒380―8575 長野県長野市大字栗田715番地５　中部森林管理局経理課（１階）専門官（契約適正化）ＩＰ電話050―3160―6533　ＮＴＴ電話026―236―2582　メールアドレスc_keiri@maff.go.jp

ウ　公告・入札説明書に対する質問：中部森林管理局治山課課長補佐　ＩＰ電話050―3160―6554　ＮＴＴ電話026―236―2640

エ　方法：電子入札システムを用いて提出すること。（入札説明書参照）郵送又はＦＡＸによる提出は受け付けない。また、承諾を得て紙入札による場合は上記イの場所に持参すること。

⑶　上記⑵アに規定する期限までに技術提案書等を提出しない者又は競争参加資格が無いと認められた者は本競争に参加できない。

４　総合評価落札方式に関する事項

⑴　総合評価の方法

ア　技術等に対する得点（以下「技術点」という。）は、下記⑵に定める各評価項目における評価点の合計とし、技術提案等の内容により最大60点を与える。

イ　入札価格に対する得点（以下「価格点」という。）は、入札価格を予定価格で除して得た数値を１から減じて得た値に入札価格に対する得点配分30点を乗じて得た値とする。

価格点＝入札価格に対する得点配分×（１－入札価格／予定価格）

ウ　総合評価は、入札者の申込みに係る技術点及び価格点の合計による「評価値」をもって行う。

評価値＝技術点＋価格点

⑵　技術提案書等の評価基準

ア　以下の項目を評価項目とする。

㈠　基本事項

ａ　企業の実績、能力及び信頼性に関する事項　同種業務の実績、同種業務の成績、信頼度（指名停止及び低入札価格調査等）

ｂ　予定管理技術者の経験及び能力に関する事項　保有資格、同種業務の実績、過去に担当した同種業務の成績、技術者の専任性、技術者の継続教育

㈡　業務の実施方針等に関する事項

業務の理解度、実施体制、実施手順の妥当性

㈢　技術提案に関する事項（評価テーマ）

総合的なコスト、工事目的物の性能・機能又は調査精度、社会的要請

イ　技術点は、上記の㈠については30点、㈡については12点、㈢については18点とする。

ウ　技術提案に関する事項の履行確実性を評価する場合の評価項目は次のとおりとする。

㈠　業務内容に対応した経費が計上されているか。

㈡　配置予定技術者に適正な報酬が支払われることになっているか。

㈢　品質管理体制が確保されているか。

㈣　再委託先への支払い等の内容は適正か。

エ　技術提案に関する事項の履行確実性を評価する場合の技術点は、上記ア㈢の技術提案に関する事項の評価点に、上記ウ㈠から㈣までの評価項目について総合的に審査の上、与えられる評価に応じた履行確実性度（1.0／0.75／0.5／0.25／０）を乗じて得た値と、上記ア㈠、㈡の評価点を加算して算出する。

⑶　落札者の決定方法

ア　入札参加者は、価格及び技術提案書等をもって入札し、次の各要件に該当する者のうち、上記⑴総合評価の方法等によって得られた「評価値」の最も高い者を落札者とする。ただし、予定価格が1,000万円を超える業務について、落札者となるべき者の入札価格によると、当該契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがあって著しく不適当であると認められるときは、次の要件をすべて満たして入札をした他の者のうち、評価値が最も高い者を落札者とすることがある。

㈠　入札価格が予定価格の制限の範囲内であること。

㈡　技術提案の審査の結果、必須の評価項目がいずれも無得点でないこと。

イ　上記アにおいて、「評価値」の最も高い者が２者以上ある場合は、くじで落札者を決定する。